

あくね 市議会だより

第3回定例会

第3回定例会総括……………2

一般質問……………5



NO.191

平成28年11月14日
編集 / 広報広聴委員会
発行 / 阿久根市議会
TEL 0996-72-0815
FAX 0996-72-2029

阿久根みどこい秋まつり 花火大会

10月9日、阿久根新港から約8千発の花火が打ち上げられ、約1時間にわたり阿久根の秋の夜空を美しく彩りました。



阿久根市議会

第3回定例会

- 一般会計予算に**1億2,678万円**を追加し、**総額108億188万円**に
- 市民交流センター建設工事費（30年度まで）**17億3,300万円**（限度額）の債務負担を可決



整備される梶折鼻公園

平成28年第3回阿久根市議会定例会を平成28年9月5日から23日の日程で開きました。

開会初日には、固定資産評価審査委員会委員の人事案件が提案され同意しました。また、阿久根小学校敷地の一部法面が降雨により崩れ、住宅・機器等に損害を与えたとして賠償を行い、和解したことの報告がありました。また、市民交流センターの実施設設計の完了に伴い、議会に設置した特別委員会の調査結果の中間報告を行いました。（P4参照）

予算関係では、平成28年度一般会計の補正予算が提案され、内容はひとり親医療費助成などの補助事業896万円、阿久根大島公園内の発電機用重油タンクの改修工事費1802万円、梶折鼻公園を整備するための設計委託料・整備工事費・用地購入費として2721万円や豪雨により被害があった農業施設の災害復旧費2334万円、土木施設災害復旧費2902万円などが提案されました。



市民交流センター完成予想図（ホール）

また、市民交流センターの実施設設計が完了し、30年度まで工事を行うため、本体工事費17億3300万円（限度額）の提案があり、今年度は工事に向けた入札・契約手続きが進められることとなります。補正予算については、2名の議員から反対討論があり、起立表決の結果、賛成多数で原案のとおり可決しました。

また、9月8日・9日には一般質問を行い、「農林水産業の振興策」、「原子力発電への対応」、「地方創生への取り組み」、「公の意識」、「市道の整備」、「補助金等のあり方」、「鶴翔高校の支援等について」など、8人の議員が質問を行いました。

本会議最終日の23日には、健全化判断比率及び資金不足比率の報告、平成27年度水道事業会計未処分利益剰余金の処分（利益剰余金2億26

01万円のうち1億円を建設改良積立金に積立、残金を繰り越すもの）の議案や平成27年度の決算についての認定議案が上程され、10月4日から10月7日まで決算特別委員会で審査を行いました。

決算の概要は、一般会計の歳入総額126億6161万円、歳出総額123億4508万円で収支差引額3億1653万円、国民健康保険特別会計など6特別会計を含む全会計の歳入総額が204億6098万円、歳出総額200億771万円、歳入歳出差引額4億53271万円の決算となっています。また、水道事業会計の収益的収入3億5943万円、支出2億7793万円、純利益8149万円となっています。

【人事案件】

固定資産評価審査委員会委員の選任

大田 俊雄 氏（同意）

【特別委員会の設置】

決算特別委員会

（平成27年度の決算について審査を行う特別委員会）

委員長…牟田 学議員

副委員長…西田 数市議員

委員…議長及び議会選出の監査委員を除く議員

委員会報告

○予算委員会

議案第37号 平成28年度一般会計補正予算(第2号)について

9月12日、補正予算について審査を行いました。所管課への質疑を行ったあと、現地調査(梶折鼻公園)及び総括質疑を行い、討論に入りました。委員から1件の反対討論があり、起立表決の結果、賛成多数で可決すべきものと決しました。

主な審査内容について

問 農地災害復旧事業費の中で受益者の負担は何か。

答 補助農地災害については、工事費の県補助金が50%で、受益者負担金は、補助残の20%としている。また、単独農地災害については、工事費の5%を受益者負担金として計上している。
(所管課 農政課)

問 住宅管理費で予定外に修繕費が多くなる住宅も修繕をしていく考えか。

答 今回の修繕は、入居者から要望があり修繕を行うものである。それ以外の建築年数が経過して、解体が必要な分については、入居者が出て

いった段階で解体をしていく。

(所管課 都市建設課)



阿久根大島キャンプ施設

問 観光費の阿久根大島工事請負費の内容と、この発電機等は設置して何年経過し、修理するのは何回目か。

答 阿久根大島の発電機用のトランスと重油タンクの改修であり、平成3年に設置してから、25年経過している。今までこういった大きな修繕はしておらず、今回初めてである。
(所管課 商工観光課)

問 市民交流センター建設について、分割発注ができないかと計画の段階で意見を出していたが、現在の状況はどのようになっているか。

答 市民交流センターの整備事業については、施設本体の整備工事、外構工事、解体工事と大きく三つに分けられる。外構工事、解体工事は市単

独で地元の業者に発注することはできると考えている。施設本体の整備工事についても建築本体、電気設備、機械設備、舞台設備と分離発注できるように設計をしている。ただ、一括発注と分離発注のどちらが地元の業者にとっていいのかということについては今後、協議をしていきたい。
(所管課 教育総務課)

市長への総括質疑

問 現在の梶折鼻公園の整備について、遊歩道を400m先のビュースポットまで延ばす価値を教えてください。

市長 散策コースにもなり、ゆっくりと黒之瀬戸の自然を感じてもらえる。往復約1kmになり、過ごしやすい時期には大変良いコースになると考えている。



梶折鼻公園での現地調査の様子

○総務文教委員会

陳情第10号 無線機のデジタル化に関する陳情書について

審査の結果、全委員の一致をもって趣旨採択と決しました。

また以下の陳情2件、意見書1件は閉会中の継続審査となりました。

○陳情第3号、鹿児島県知事に対し、九州電力に川内原発の免震重要棟

の早期建設を求めるよう要請する意見書の採択を求める陳情

○陳情第4号、九州電力に対し、川内原発の免震重要棟の早期建設を

求める意見書の採択を求める陳情

○意見書第1号、九州電力川内原子力発電所に免震重要棟を早急に建設することを求める意見書の提出について

○産業厚生委員会

陳情第9号 脇本海岸海の家の営業時間と営業内容の見直しに関する陳情について

第3回定例会後、9月28日、提出者に参考人として委員会へ出席していただき審査を行いました。委員より来シーズン以降に向けてもしつかりした内容にしていかなければならないとの意見があり、慎重な審査が必要のため、現在も継続して審査を行っています。

市民交流センター等に関する調査特別委員会の中間報告

交流センターが、多くの市民に活用され、本市にふさわしく、素晴らしい施設となるよう期待し、調査しています。

○平成27年9月25日

正副委員長の互選、日程等について協議

○同年10月13日

所管課の教育総務課・生涯学習課に出席を求め、これまでの状況と進捗状況について、資料の配布を求め、以下のとおり説明を受けた。

労務費や資材費等の高騰もあり、市民交流センター、図書館の工事費と市民会館の解体費、設計委託料、備品購入費等の合計が37億2千万円となる。一方、歳入の交付金が予定の半額程度の見込みとなり、現設計を見直し、市民交流センター分を解体工事費、備品費、工事監理費を含めて、約28億円の事業費を約20億円まで圧縮し、設計を平成28年6月30日まで、その後建設工事費を予算計上し、入札手続きを行い、平成28年度中に着工、平成30年度の完成を目指す。という説明があった。

委員からの主な質疑

問 今後も労務費や資材費の高騰があると思うが、上昇しても20億円で建設するとの考えか。

答 補正予算で承認されたこともあり、徹底してその額に抑えたいと考

えている。

問 20億円の公共事業は大きく、市内の建設業にも波及効果があるような発注方法をお願いする。

答 市の事業であり、できる限り地元が受注できるように考えている。

○平成27年10月22日

設計者を参考人として出席を求め、設計変更の説明後、質疑を行った。

問 施設の全周がガラスになっているが、断熱効果や安全面からも懸念している。暖房の効きも良くないと思うが。

答 大きな軒先の中に入っているガラス面は様々な利点がある。ひさしを出して、奥まったところにガラスが立っている、通風や採光を取り入れ、照明をつけないで過剰な管理費を抑えることもできる。ガラ



設計業者による説明会の様子

スの断熱性能は、厚いコンクリートと同じような性能がある。コストも安く、明るく危険でないものがつくれる。

問 20億円の事業費は守ってほしい。デザインより安全・安心なものをつくって欲しい。

答 20億円の予算を目標に守る。

○平成28年1月14日

市から設計者に、ホールの座席数500席程度を基本とし、全体面積を縮小する要望を行ったとの説明があった。

○同年3月25日

基本設計の完了に伴い、設計者から説明があった。来客用トイレの分散、ホール座席数を600席から500席程度に縮小、全体の事業費を28億8千万円から20億円に縮減したい等の説明があった。

○同年7月11日

実施設計完了に伴い、設計者から説明があった。委員からの主な意見は次のとおり。

- ・市民に大きな負担を強いることになり見直すべきだ。
- ・市民交流センターは、市民の長年の要望で、早くつくって欲しいとの多くの意見があり、一日も早い完成を望んでいる。
- ・20億円の建設費を厳守するのとことで、市議会としても注視すべきである。

討論

今定例会で行われた議案に対する討論内容は次のとおりです。

議案第37号 平成28年度阿久根市一般会計補正予算（第2号）

反対討論

今回の議会を通してわかったことは、職員が仕事の仕方を知らないということ。体制を守ること、伝統を守ること、お互いの顔を立てることが一番重要な価値観になっている。考え方が根本的になっていない。指導する能力も幹部職員、市長、議会にない。どうしようもない状態が続いてきている。このままでは全く無責任な結果が生まれる。今までのあり方を考え直す必要がある。

反対討論

梶折鼻公園の整備工事について、人けのない場所に往復約1キロの遊歩道とビュースポットを設置することとは治安上の問題もあり好ましくない。利用の少ない場所を整備し、維持管理費がかかり続けることは阿久根市にとってプラスにならない。予算からこの一点を外し再度提案されることを希望する。

平成28年第3回定例会 議案及び審議結果

番 号	内 容	結 果
報告第9号	議会の委任による専決処分の報告について	報 告
議案第36号	固定資産評価審査委員会の委員の選任について	同 意
議案第37号	平成28年度阿久根市一般会計補正予算（第2号）	可決（多数）
報告第10号	健全化判断比率及び資金不足比率の報告について	報 告
議案第38号	平成27年度阿久根市水道事業会計未処分利益剰余金の処分について	可 決
認定第1号	平成27年度阿久根市歳入歳出決算認定について（一般会計）	継 続 審 査
認定第2号	平成27年度阿久根市歳入歳出決算認定について（国民健康保険特別会計）	継 続 審 査
認定第3号	平成27年度阿久根市歳入歳出決算認定について（簡易水道特別会計）	継 続 審 査
認定第4号	平成27年度阿久根市歳入歳出決算認定について（交通災害共済特別会計）	継 続 審 査
認定第5号	平成27年度阿久根市歳入歳出決算認定について（介護保険特別会計）	継 続 審 査
認定第6号	平成27年度阿久根市歳入歳出決算認定について（後期高齢者医療特別会計）	継 続 審 査
認定第7号	平成27年度阿久根市水道事業会計の決算の認定について	継 続 審 査
陳情第10号	無線機のデジタル化に関する陳情書	趣 旨 採 択

平成28年第3回定例会 議決結果（賛否が分かれた案件のみ）

議 案 名	議員名（議席番号順）																議決結果	討 論
	白石 純一	渡辺 久治	濱田 洋一	西田 数市	竹原 信一	飯屋園 一徳	竹原 恵美	野畑 直	中面 幸人	大田 重男	濱崎 國治	牟田 学	濱之上 大成	山田 勝	岩崎 健二	木下 孝行		
平成28年度阿久根市一般会計補正予算(第2号)	◇	◇	◇	◇	◆	◇	◆	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	一	可決	反対：2 賛成：一

※木下孝行議員は議長職のため特別多数議決以外の議案については、表決（賛成、反対の意思表示）権はありません。
（表の見方）◇は賛成、◆は反対

より良い市政を目指して

一般質問

— 市政を問う —

平成28年第3回定例会では、8名の議員が一般質問を行いました。

【質問者】（質問順）

⑧ 白石純一 議員

⑦ 竹原恵美 議員

⑥ 牟田学 議員

⑤ 岩崎健二 議員

④ 竹原信一 議員

③ 山田勝 議員

② 渡辺久治 議員

① 濱田洋一 議員

掲載内容については、それぞれの議員が行いました一般質問の主な項目についての質問と答弁の要旨であり、質問者がまとめたものです。

問 漁業を取り巻く課題は何か

答 後継者不足も課題の一つである

濱田 漁業後継者就業支援事業の応募状況・実績は。

市長 3件の問い合わせはあったが現在のところ申請には至っていない。今後も北さつま漁協と協力して新規就労者の確保に努めたい。

濱田 阿久根と言えば文旦であり、市の木として位置づけられている。生産の維持・継続が必要だが、文旦農家等に対する今後の取組・支援についてどのように考えているか。

市長 これまで中山間地域等直接支払交付金や鳥獣被害対策実践事業の活用を図りながら、樹園地の保全活動を地域が一体となって実施しており、今後もこれらの事業の活用と推進を図り、本市のシンボリックな文旦農家に対する支援を行っていく。



特産品の阿久根文旦



濱田 洋一 議員

濱田 物産品販路拡大事業の今後の事業展開における課題は何か。

市長 数量の確保や安定供給・販売期間の設定などバイヤーとの商談で課題が見えてきたところである。出展事業者等のご意見も伺いながら探究していきたい。

濱田 事業者と行政が一体となり安心・安全な産品を販売し、阿久根の「うまい」を発信していただきたい。

防災対策について

濱田 自主防災組織が、災害時にその機能を果たし減災につなげる支援策をどのように考えるか。

市長 自主防災組織の組織強化のための支援策として、災害時に円滑な対応を行うための訓練実施と防災意識を高めることが重要である。

問 核をめぐる世界の危機的状況で、日本の役割・阿久根の可能性は

答 国のエネルギー政策を注視し、取り組んで行く



渡辺 久治 議員

渡辺 今世界では5大国の他に北朝鮮をはじめ数力国が核保有国である。また世界には短時間で原爆製造に転用できる施設（原発）が数百基存在する。世界各地の紛争・テロを思う時この危うい状況を何とか出来るのは日本ではないだろうか。唯一の被爆国であり福島第一原発の事故を経験している日本が原発政策を転換し新たな価値観を発信すれば世界に大きな影響を及ぼすと考えるがどうか。

市長 国は「震災前に描いていたエネルギー戦略を見直し原発依存度を低減する」としている。国の方針に基づき正しい情報を丁寧に発信していくことが重要である。

渡辺 国民の半分以上が原発の稼働に否定的である。「生活は少々不便であっても物質的にはそれほど豊かでなくとも安心して暮らせる生活」



世界遺産 原爆ドーム

のほうが良いのでは、多くの人がそのことに気づき始めている。阿久根から日本の原発政策を変えていこうではないか。住民安全の為に思い切った稼働反対の立場を取れば心ある国民の支持は得られると思う。

市長 国は原発を「重要なベースロード電源」としてはいるが、再生可能エネルギーの導入により可能な限り低減させるとしている。国の動向に注視しながら本市のエネルギー政策に取り組んで行く。

渡辺 阪神淡路や熊本で起きたような地震が運転中の原発の真下で起きたら、もう日本には住めなくなる。そういうことが無ければ人間は原発を止められないのだろうか。これまでの歴史を踏まえて日本の役割、そして阿久根がなし得るべき可能性についてどうか考えてもらいたい。

問 梶折鼻公園一体を周年観光地に

答 日本三大急潮 万葉集のゆかりの地として整備に取り組む

山田 観光地の少ない阿久根市に梶折鼻公園一体を観光の名所として整備しないか。

市長 今年3月、地元の有志で桜まつりが実施された。梶折鼻公園一体は日本三大急潮・黒之瀬戸大橋・釣りの名所・万葉集ゆかりの地として貴重な場所。今年から県の補助事業で整備し、観光地として活用する。



陳之尾峠に新たに整備された看板

山田 旧阿久根高校跡地調査特別委員会の調査報告や提案をどう受け止める指示しているか。

市長 国体に向けた簡易宿泊所、災害時の避難場所、介護職の人材育成福祉施設、高齢者の集合住宅として校舎は複合的に活用し、グラウンドはサッカーの練習場と言う提案を

重く受け止めている。必ず取り組んでいく案件であり、検討するように指示している。

山田 夏休み、パルティータとの強化合宿に訪れたサッカーチームと人数は。

市長 13チームの約400人が阿久根を訪れた。

山田 ゴールデンウィークなど連休に練習試合や合宿に年間千人位、東北・関東からも合宿に訪れると聞く（鹿児島ユナイテッドFCで活躍している中原選手もこのチームの出身）。パルティータは全国レベルのチームで阿久根市の宝物。市としても支援する必要があるのでは。

市長 このチームは素晴らしい選手を輩出している。旧阿久根根高校跡地グラウンドの活用について練習場も含めお年寄りも使えるグラウンドを考えている。



山田 勝 議員

問 市長は官と公を混同していないか

答 官と公の立場を十分自覚しながら施政を決定し、実施している。



竹原 信一 議員

竹原 公務員法では、「職員の国民に対する利益確立を根本基準とする」となっている。違憲組織は危険物だから政治家が組織を監視しなければいけないのに、西平市長が役人組織の代弁者をやっているとは何事か。

市長 議会の場合は議員や市民へ市政についてわかりやすく説明するための方だと考えている。答弁書の案分は職員が書くが、それに私が修正を入れた上で読んでいる。

竹原 「うみ・まち・にぎわい」事業に不具合や苦情があるのではないか？

市長 事前に具体的な内容を伺っておらず、答弁は差し控える。

竹原 苦情はないのか。

市長 担当課には来ていない。

竹原 自分は事業の不具合を多数聞き、課にも言った。どうしたことだ。
市長 工事の際に幾つか話を聞き対

策を講じたが、現在は聞いていない。

竹原 いま苦情が出ている。道を歩けばわかることだ。また、政府の地方創生計画はほとんど失敗している。職員が仕事をできないのも職員の利益確立法が原因と分らないか。

市長 質問を理解できないので答えかねる。

竹原 法律も読めないのに議長や市長をやっている。交流センター事業では使い道を分らないまま作る。市長にも議会にも能力がない。自分で、事業がどうなるかを感じながらするのが公の視点ではないか。

教育総務課長 施設の使い方については、設計段階から市民等の意見を伺いながら検討している。

竹原 市長も議会も本当に分からないのがわかる。市民の皆さん、残念だが、これから恐ろしいことになる。



問 市道の整備状況について

答 中央線弓木野・野元区間は一次改良済区間である

岩崎 中央線は、最も重要な路線であると認識するが市長の所感は。

市長 一級路線で市を縦貫する広域的で重要な路線であると考えている。

岩崎 一次改良済区間としている区間は、道路構造令に合致しているか、市長は危険度の認識はあるか。

市長 認識している。

都市建設課長 最小半径は、十五メートルあり、道路構造令に合致している。

岩崎 未改良区間の改良計画はあるか。

都市建設課長 未改良区間である長野集落から県道までの区間は、家屋が連担しており、離合個所もあることから計画していない。

岩崎 一次改良区間も含めて早急に改良する必要があるが。

市長 優先順位を勘案しながら実施する。

岩崎 市道黒崎線国道から寺山団地までの最小幅員はいくらか。

課長 四・四メートルである。

岩崎 改良の意思はないか。

市長 家屋が連担しており国道との交差点も含め困難であるので側溝の改良は完了した。

岩崎 概算の設計を行えないか。
市長 可能であると思うが、できると断言はできない。

各地区からの要望について

岩崎 各地区からの道路整備の要望について回答はどうしているか。

市長 担当課で区長さんにも立ち会っていただきながら現地調査を行い、理解を頂きながら優先順位をつけて進めている。



中央線、落区周辺の一次改良区間



岩崎 健二 議員

問 農業・漁業国際大学の誘致構想について

答 少子化問題、莫大な資金が必要であり多くの課題がある

いる。委託先に任せきりにせず、関係課は十分注意してほしい。

市長 老人福祉センターのみならず委託者、指定管理者とも連絡を取り合って要望、苦情に真摯に対応していく。

2020年開催予定の鹿児島国体の準備について

牟田 ボクシング選手の強化、育成について練習環境が必要になる。より実践に近づけた練習をするには、設備も大事である。ボクシングリングの設置を考えないか。

市長 リングの整備については、しっかりと検討して早い段階で動いていく。



牟田 学 議員

牟田 大学の本部を出水市のNEC跡地に、農業分野を旧阿久根高校跡地に、漁業分野を長島高校跡地に誘致できたらと思うが市長の考えはどうか。

市長 誘致に関しては一から立ち上げないといけないことから、それなりの支援がないと難しいものだと考える。

老人福祉センターの管理・利用状況について

牟田 現在の管理状況と直近一年間の利用状況を伺いたい。

市長 管理については、平成28年4月1日からシルバー人材センターに業務委託をしている。利用実績は、平成27年度は開館日数240日、利用者数は2317名である。

牟田 施設の利用者から苦情が出て



設置が望まれるボクシングリング

問

補助金事業は公益性の上に計画されていると
市民は理解していると思うか

答 住民の方が理解するのは難しいと思う

市長 個人的には、市の行政に関わることがなければ、市から提供される様々な補助事業がどういった財源でできているか知らなかった。おそらく住民の方々もあまりご存知ではないと思う。

竹原 補助金を利用する上での注意点は何か。

市長 少ない負担で目的を達成できる効果があるが、申請時には事務的負担や補助金の目的に従い実施する必要や、経費・内容の変更など自由に行えない、条件に違反した場合は返還しなければならない。また、補助金への過度の依存は自主性を失わせるなどの弊害がある。

竹原 補助金は法の上で「公益上必要な場合に行うことができる」とされている。住民のニーズをくみ取ることが大事であるが御用聞き行政ではないけない、要望は行政需要ではない。結局、税金として跳ね返ってくるものである。また、住民に不公平感があると納税意欲を失わせることになるため、事業は公益性のもとに計画し、公平に運営、情報公開をしてほしい。



見直し後の完成予想図

竹原 今回、市民交流センター事業の大きな見直しを行ったが、他の事業も見直しを行って進めていくか。

市長 事業の執行は社会情勢など変わっていく中で需要の見直しをしながら行っている。

竹原 国の補助金も満額くる時代ではない。要望からくる事業は積みあがっているが、現状の必要性に合うように事業を停止・削減・継続など判断して進めてほしい。



竹原 恵美 議員

問

鶴翔高校支援を、
県立の垣根越えて

答 費用負担策、高校と相談・検討したい

白石 鶴翔高校は特徴ある分野で活躍、今春国公立4年制大学9名進学。部活動も優秀。地域資源であり街の誇りだ。同校の位置づけ、支援策は。

市長 同校の存在は地域活力につながる。市は後継者育成対策協議会参加、出展補助ほか、今年度3年A組商品支援事業補助金を創設した。

白石 本年市内就職13名で、まだ増やせる。例えば、地元就職し一定期間勤務後の卒業生・雇用主に一時金の支給や、初任給を上げる努力を商業者に働きかけ一部負担するなど。こうした取組みをどう考えるか。

市長 数年前に他自治体を例に調べたことがあり、再度研究したい。

白石 遠距離通学、寮がないことでのアパート住まい、資格検定・講習、模試費用等保護者負担も多い。負担軽減の支援を行うことでより多くの生徒が入学し優れた成績を残せば、



白石 純一 議員

市発展に今以上に貢献する。県立の垣根を超え検討できないか。

市長 どういう費用負担が可能か、高校とも相談しながら検討したい。本年の商品支援事業の効果も見たい。

白石 地元高校支援は、子育て世代に選ばれる町づくりにとって重要だ。



鶴翔は誇れる
地域資源

その他の質問・要望

・旧阿久根高校は、合宿所付きグラウンド、鶴翔高校寮や実習場、障がい者や高齢者雇用の場兼寄宿舎、避難所、図書館等に利用。再生エネルギー、公民連携手法導入し、鶴翔や総合グラウンドと一体で交流人口の舞台に。

・6月議会で、災害時要援護者の原発避難時車両を国や電力事業者で確保すべきと市に協議要望したが、九州電力はこれまでの原発10km圏内配備の避難車両を30kmに広げる方針を発表。市内に多くの避難車両が配備されるよう九電に要求されたい。

所管事務調査

産業厚生委員会では、所管事務調査項目の一つである「南九州西回り自動車道サービスエリア等建設」に関する調査を行うため、8月23日から24日にかけて愛知県刈谷市の「刈谷ハイウェイオアシス」と静岡県「道の駅富士川楽座」に行つて調査を行いました。現地では担当者から施設の概要や設置に至るまでの経緯、観光業への影響や効果等について説明を受けた後、委員から質疑を行いました。調査の結果、実現に向けては様々な課題が見つかり、今後のも阿久根市内への南九州西回り自動車道サービスエリア等の建設の実現に向けて継続して調査を行つてまいります。



刈谷ハイウェイオアシスでの現地調査

〇議会のうごき（8月～10月）

10月 						9月 						8月 																																																																															
27日	26日	24日	18日	7日	4日	28日	23日	16日	12日	8日	5日	29日	23日	10日	4日																																																																												
議長研修会						鹿児島県町村議会常任委員長研修 修（28日まで）						市町村アカデミー議員研 修（28日まで）				産業厚生委員会 日・23日開催）				議員と語る会（19日・20 日・23日開催）				総務文教・産業厚生委員 会				決算特別委員会（7日ま で）				産業厚生委員会				議会運営委員会				生委員会				予算・総務文教・産業厚 生委員会				日まで）				本会議（一般質問）（9 日まで）				広報広聴委員会				第3回定例会（提案説明・ 質疑）				全員協議会				全員協議会				議会運営委員会				調査（24日まで）				産業厚生委員会所管事務 調査（24日まで）				市民交流センター等に関 する調査特別委員会				議会運営委員会			

議会を傍聴しませんか。

市議会は、市の予算や施策について話し合い、決定する大切な場所です。

ぜひ傍聴にお越しください。

学校の社会科見学やPTA、各種団体等の研修でも傍聴できます。

編集後記

東京都豊洲市場の盛り土問題や、富山市議会での政務活動費の問題が、マスコミを賑わせています。都政の在り方や議員の資質が非難されるのは当然ですが、行政に対する住民の無関心も要因のひとつではないでしょうか。「私達はこういう社会に住みたいのか」そのような観点から、市民の皆様の、行政や議会に対する厳しくも前向きな評価が、健全な行政や議員の質の向上に資するものであると考えます。情報量に限りはありますが、阿久根の行政の現状を知るために、この『市議会だより』をご利用いただければ幸いです。疑問な点やご意見など遠慮なくお寄せください。

（委員 渡辺 久治）

発行責任者

議長 木下 孝行
副議長 渡辺 久治
委員 白田 純一
委員 濱田 洋一
委員 竹原 信一
委員 飯屋 徳一